

令和7年度第2回かながわつながりネットワーク (神奈川県版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム)

令和8年1月29日

神奈川県福祉子どもみらい局
福祉部生活援護課

1 県の孤独・孤立に対する方針

- ・新かながわグランドデザイン（県総合計画）での位置づけ
- ・神奈川県における孤独・孤立対策の取組方針と4本柱

1-1 新かながわグランドデザイン（県総合計画）での位置づけ

テーマ
自分らしく生きられる神奈川 政○○○文○○○健○○○土○○○教○

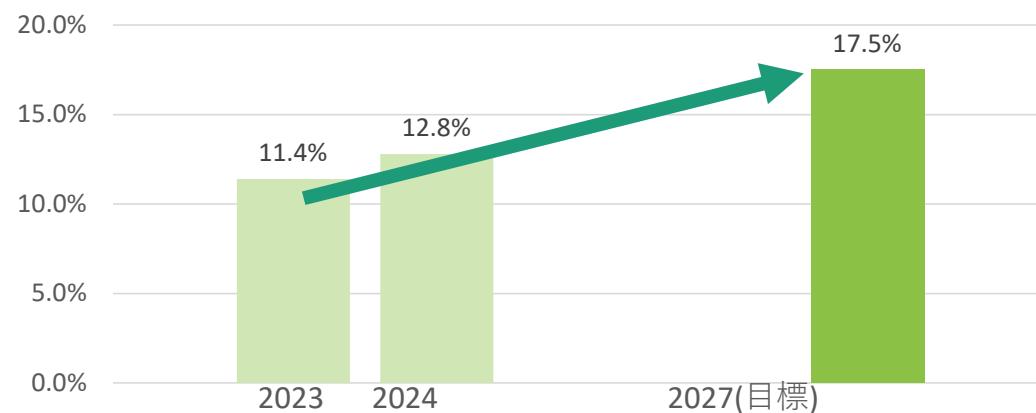
III
プロジェクト 9 生活困窮
～誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくり～

1. 健康・福祉 2. 文化・芸術 3. 地域活性化 4. 環境・エネルギー 5. 土地・開発 6. 教育・人材育成

7. 地域経済・雇用 8. まちづくり・都市機能 9. 交通・通信 10. 地域資源・観光 11. 地域社会・行政

「誰もが地域で孤立することなく、
困ったときに助け合えるつながりを持っていること」
に関する満足度（県民ニーズ調査）

11.4% (2023年度) → 17.5% (2027年度目標)



新かながわグランドデザイン実施計画 (R6.3)

1-2 神奈川県における孤独・孤立対策の取組方針と4本柱

方針

孤独・孤立の「未病改善」

4本柱

- ① 声をあげやすい・かけやすい社会づくり
- ② 状況に合わせた切れ目のない
相談支援につなげる仕組みづくり
- ③ 人と人とのつながりを実感できる地域づくり
- ④ NPO等の活動を応援し、
多様な担い手が連携する土壤づくり

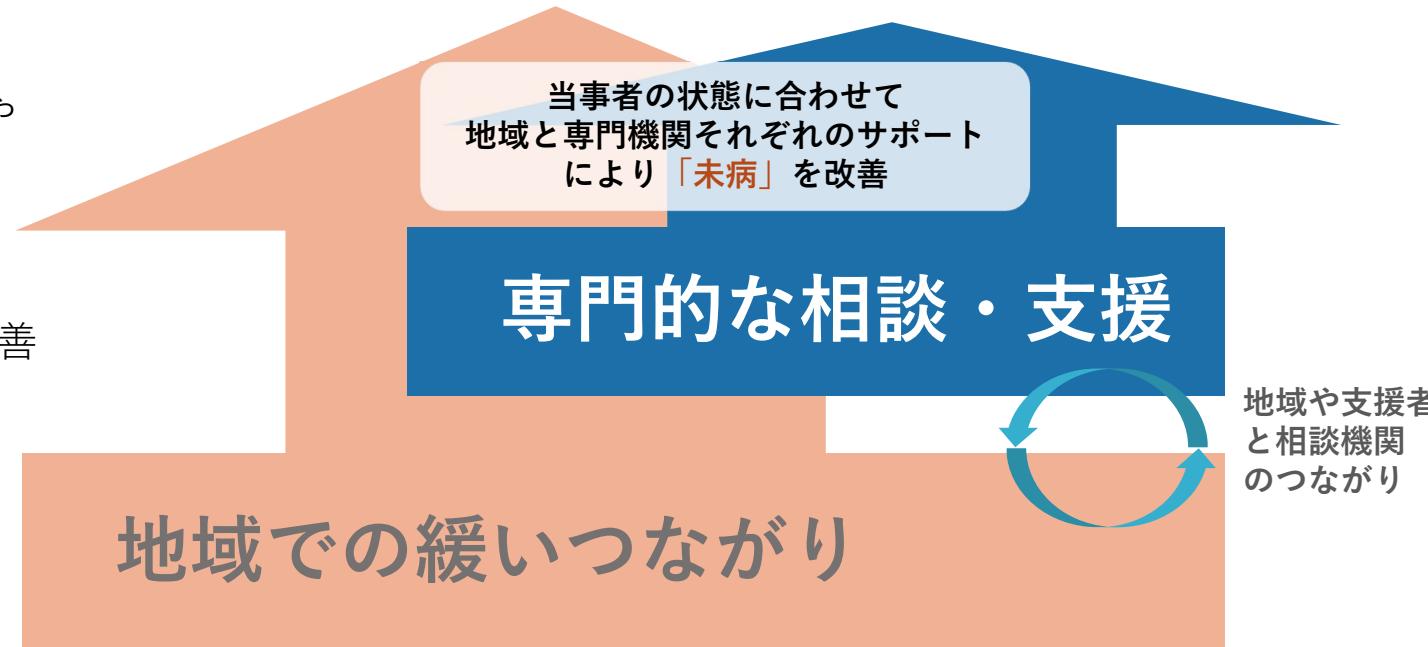
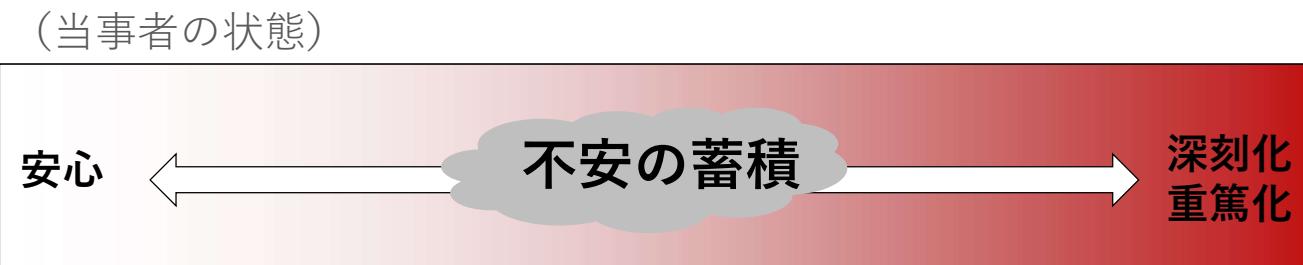
※令和6年度第1回かながわつながりネットワークでの検討や支援団体等へのヒアリングをもとに、令和6年度第1回神奈川県生活困窮者対策推進本部にて検討

1-3 孤独・孤立の未病改善

孤独・孤立や生活困窮の「不安」は
日ごろからライフステージ等の変化に
応じて段階的に変化する。

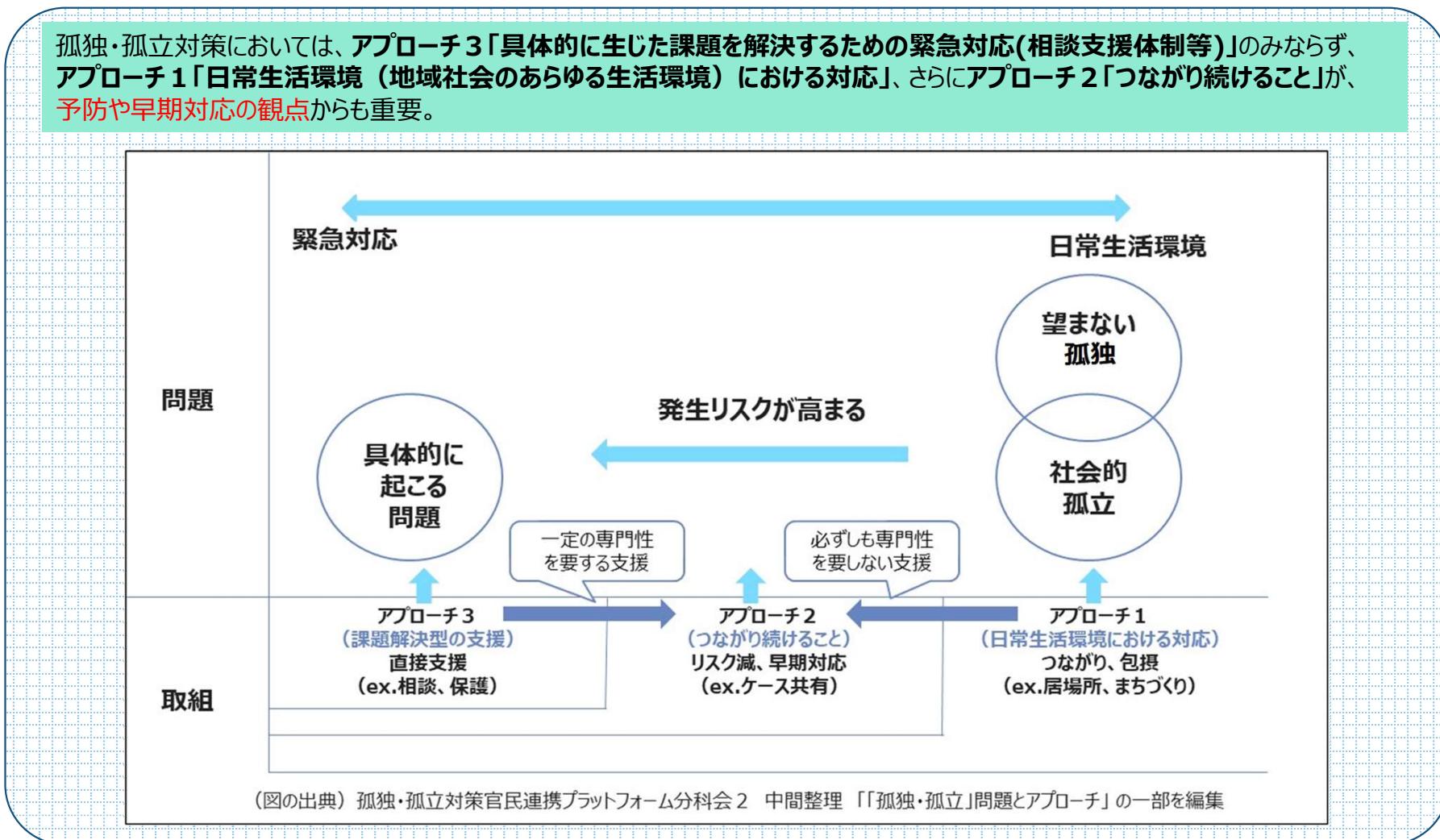


孤独・孤立や課題を抱えてからではなく、
日ごろからの地域での緩やかなつながりや
支援者と相談機関との間につながり
を持たせることで、
当事者の様々な不安の状態の中でも改善
に向ける。



(参考) 「孤独・孤立」の問題とアプローチの全体像

孤独・孤立対策においては、アプローチ3「具体的に生じた課題を解決するための緊急対応(相談支援体制等)」のみならず、アプローチ1「日常生活環境(地域社会のあらゆる生活環境)における対応」、さらにアプローチ2「つながり続けること」が、予防や早期対応の観点からも重要。



2 かながわつながりネットワークの目的・テーマ

- ・かながわつながりネットワークの目的
- ・孤独・孤立対策に係る連携の土壤づくりについて
- ・かながわつながりネットワークの共通テーマについて

2-1 かながわつながりネットワークの目的

孤独・孤立対策推進法の趣旨を踏まえ、

地域の関係者（**分野を越えた産学官民の主体**）が

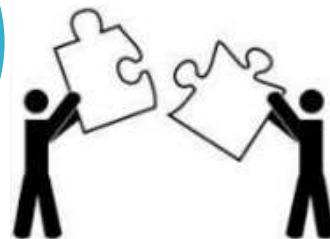
顔の見える関係でネットワークを構築し、**水平的な連携・協働**を推進

→緩やかなつながりの**モデルや事例を発掘・創出し**し、県内に普及

連携・協働の推進を通じて
孤独・孤立の未病改善を図り
グランドデザインの目標達成
をめざす

当事者や担い手
のニーズ
(課題)

地域の
ニーズとシーズを
マッチング！



多様な担い手
のシーズ
(社会資源)

2-2 ネットワークの取組みを進める上での課題

課題	対応
担い手が抱える課題や社会資源の 把握と情報共有	連携の土壤づくり 多様な担い手（产学研官民）に 当ネットワーク参加を呼びかけ 多様な担い手が抱える課題と 有する社会資源を収集・共有 併せて視察会や交流会など 顔の見える関係づくり
課題と社会資源の マッチングの難しさ	
メンバーが一丸で取り組める 共通テーマの設定 ※	共通テーマの設定 孤独・孤立の未病改善や緩やか なつながりに係るテーマを設定

※孤独・孤立対策推進法の趣旨を鑑み、県として特定の分野や対象に限定する意ではなく、多様な担い手間で共有して取り組むためにテーマ設定したい。
また、個々のメンバー間の連携や協働を制限するものではない。

2-3 孤独・孤立対策に係る連携の土壤づくり

- ・多様な担い手に**当NWへの参加を呼びかけ**
- ・担い手の課題と社会資源の**情報収集・共有**
- ・視察会や交流会など**顔の見える関係づくり**



(各画像は取組みのイメージです) 9

2-4 かながわつながりネットワークの共通テーマ

構成員等の連携による

①つながることへの普及啓発・機運醸成

(つながりサポーターの養成や孤独・孤立対策強化月間を中心とする広報など
つながること・周囲に相談することへのムーブメントづくり)

②社会参加・地域参加の機会づくり

(就労・就労体験・ボランティア・文化・スポーツ・イベント・
生涯学習、オンラインコミュニティなど
社会デビュー・社会参加、地域デビュー・地域参加の機会づくり)

※孤独・孤立対策推進法の趣旨を鑑み、県として特定の分野や対象に限定する意ではなく、多様な扱い手間で共有して取り組むためにテーマ設定したい。
また、個々のメンバーの課題意識やメンバー間の連携や協働を制限するものではなく、個々の連携・協働の推進も併せて取り組んでいく。

3 神奈川県における孤独・孤立対策事業の進捗状況

- ・かながわつながりネットワークの拡大
- ・構成員による連携事例
- ・つながりサポーター養成講座
- ・ゆるやかなつながりの拠点を担う人材育成・支援
- ・他のネットワークとの連携
- ・エール“ガバメント×ベンチャー”アライアンスかながわ（YAK）
- ・オンライン研修・視察研修

3-1 かながわつながりネットワークの拡大

35団体⇒47団体へ

社会福祉法人、NPO、老人クラブ、企業、行政等の
多様な担い手が参画

今後、さらにメンバーを拡大していくとともに
具体的な官民・民民連携の取組みを推進

3-2-1 かながわつながりネットワーク構成員による連携事例その①

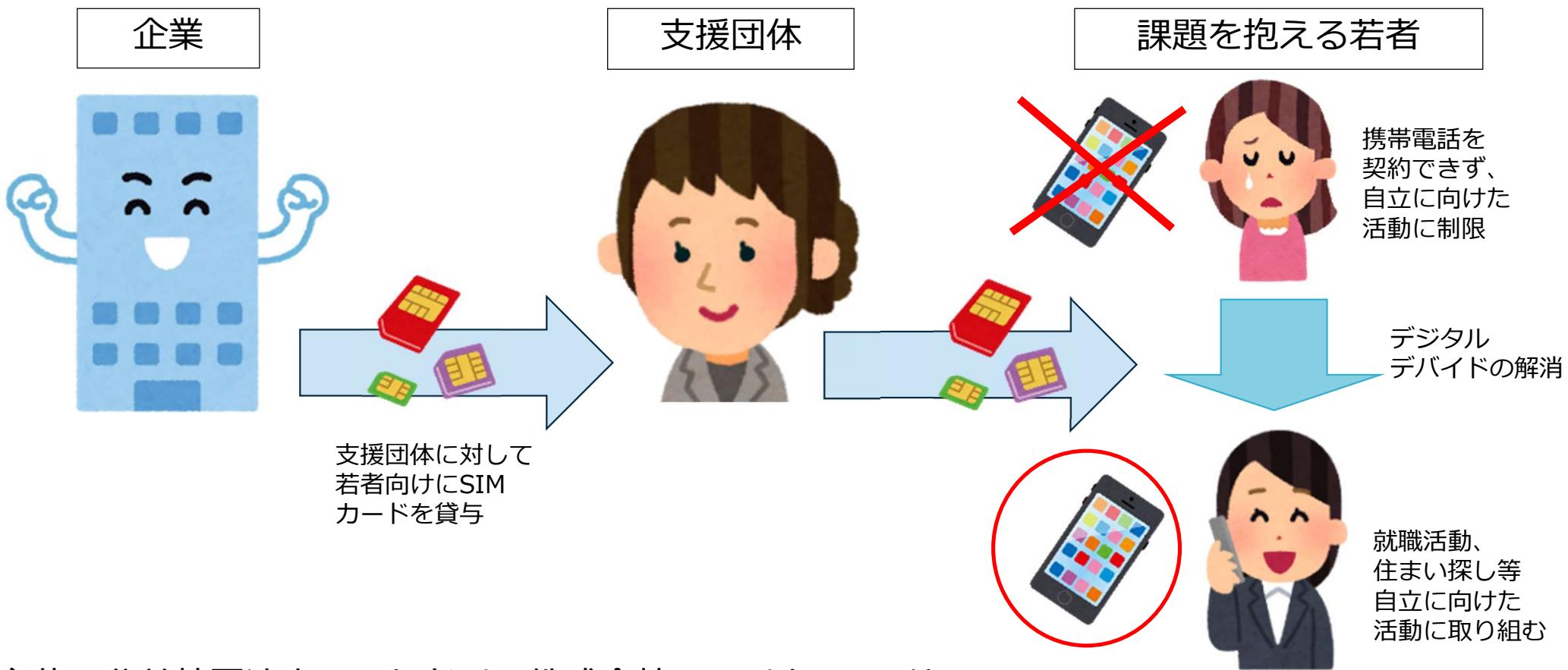
孤独・孤立対策で連携！居場所を利用する子どもたちと企業との「食」を通じた交流会を実施しました！（令和7年9月19日記者発表、9月29日実施）



実施主体：認定特定非営利活動法人フリースペースたまりば、株式会社ファンケル、株式会社ツルハ

3-2-2 かながわつながりネットワーク構成員による連携事例その②

孤独・孤立対策で連携！デジタルデバイドの解消により孤立・困窮する若者の自立を支援します！（令和8年1月5日記者発表、現在実施中）



実施主体：公益社団法人アマヤドリ、株式会社ユーリカ・ワイヤレス

3-3 つながりサポーター養成講座

- ・孤独・孤立対策推進法に基づき、孤独・孤立に関する理解の促進と、本人ができる範囲で孤独・孤立を防ぐための担い手となる「つながりサポーター」を養成する講座を開催
- ・自治体職員、老人クラブ、社会福祉協議会等を対象に県内各地で開催中。計525名が講座を受講。
- ・受講者の対象を専門的知識をもたない国民全般とし、専門家を育成するのではなく、日常生活の声掛け等から、声を上げやすい社会環境づくりを目的とする。



ゆめクラブ大和 友愛研修会(令和7年6月26日)



箱根町ボランティア連絡協議会・生活支援コーディネーター(令和7年6月26日)

3-4 ゆるやかなつながりの拠点を担う人材育成・支援

- ・地域のゆるやかなつながりの場を担う地域人材を育成するため講座を開催。
- ・県内でカフェ型の居場所を提供しているNPO 法人を講師とし、実体験を踏まえた講義を行うとともに、居場所の運営体験や、居場所づくりを応援する地域団体等との交流も交えた講座。
- ・講座を通して学んだことや思いを発表する「わくわく構想発表会」を実施。23名の受講者が発表。



インターンの様子@こまちカフェ(令和7年11月15日)



わくわく構想発表会(令和7年12月6日)

3-5 他のネットワークとの連携

かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（生活困窮）、ビジネスアクセラレーターかながわ（産業振興）、人生100歳時代ネットワーク（コミュニティ）、かながわSDGsパートナー（SDGs）など県の既存ネットワークと連携して、孤独・孤立対策やつながりづくりをテーマに意見交換や取組検討

かながわつながりネットワークのご案内
(神奈川県版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム)

令和7年8月28日

神奈川県福祉子どもみらい局
福祉部生活援護課

人生100歳時代ネットワーク通常会に参加

(令和7年8月28日)



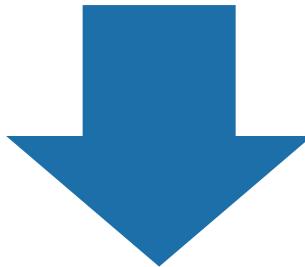
かながわSDGsパートナーMTG
「多様な主体の共創による課題解決
～困難を抱える子ども・若者等への支援～」
(令和7年12月23日)



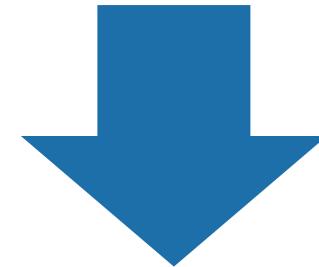
兵庫県×神奈川県 ベンチャー・地元企業・自治体が集合！
「ひと」起点の事業共創
(令和8年1月15日)

3-6 エール“ガバメント×ベンチャー”アライアンスかながわ（YAK）

事業者や地域が主体となって孤独・孤立対策が県内で広まることを期待し、
「人と人とのつながりを促す事業者コミュニティの確立」でエントリー



2つの提案事業が採択！！



地域で“緩やかな繋がり”を育む
コミュニティナース実装プロジェクト

シニアを中心に孤独・孤立している人と
地域サポーターをつなぐ地域共助の実現

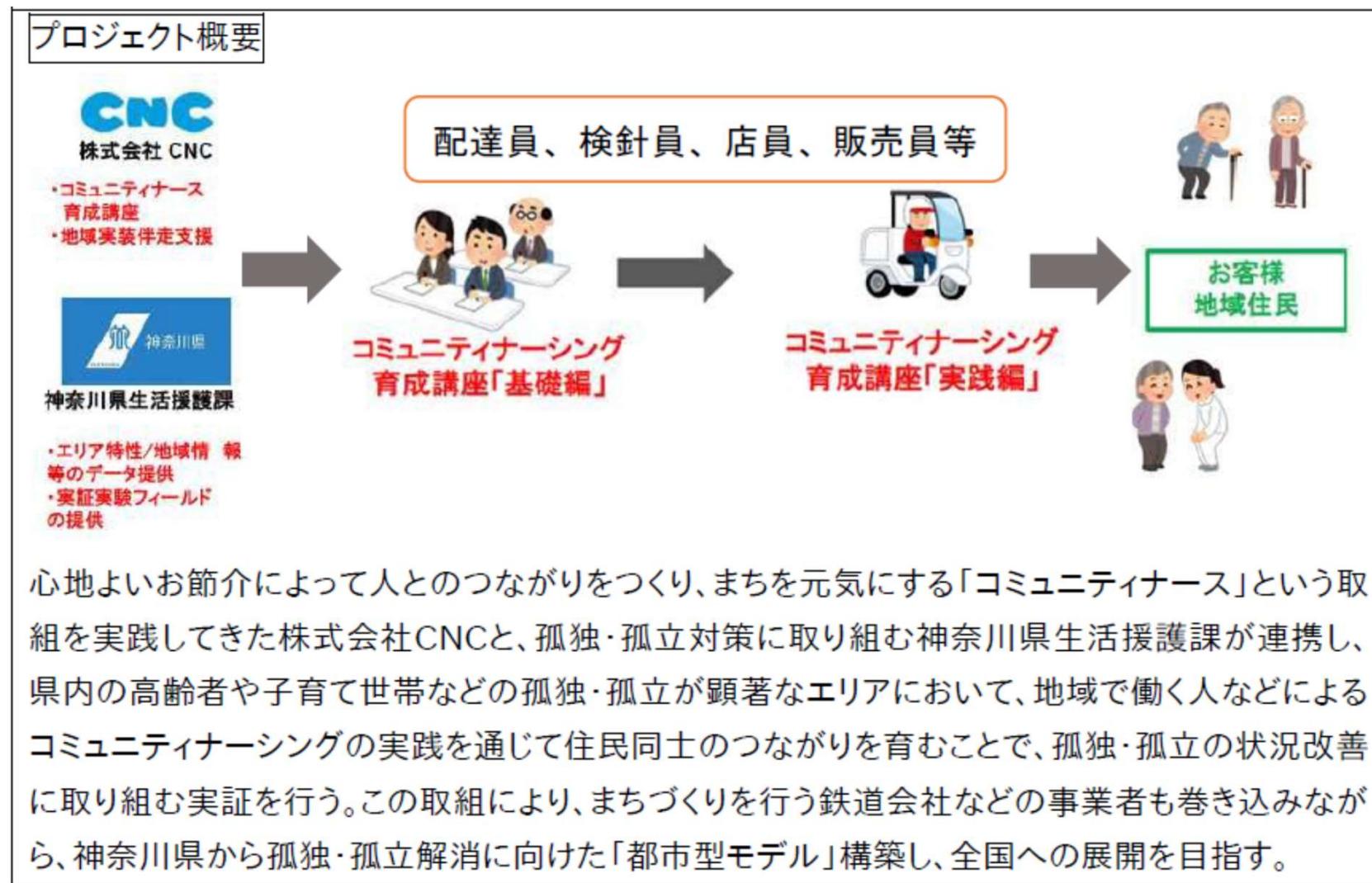


株式会社CNC（島根県雲南市）



株式会社OTERA（逗子市） 18

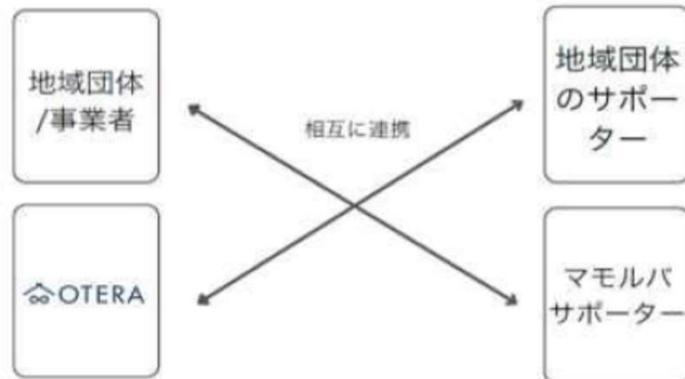
3-7-1 地域で“緩やかな繋がり”を育むコミュニティナース実装プロジェクト



3-7-2 シニアを中心に孤独・孤立している人と地域サポーターをつなぐ地域共助の実現

プロジェクト概要

実証実験①官民・民民の連携



実証実験② アプリを活用した地域との接続

簡単に高齢者の安否確認ができるスマートフォンアプリと困りごとを解決する地域サポーターをマッチングするサービスを提供する「マモルバ」を展開する株式会社OTERAと、孤独・孤立対策に取り組む神奈川県生活援護課が連携し、地域団体や地域サポーター、行政等が相互に連携しながら、地域全体で孤独・孤立対策を行うネットワークを創出するとともに、アプリを活用して高齢者とサポーターを適切にマッチングする実証を行う。この取組により、孤独・孤立解消に向けた官民連携・民民連携による地域共助の「かながわモデル」の構築を目指す。

3-8 オンライン研修・視察研修

- ・孤独・孤立対策推進法や各取組への理解を深めるため、NPOや市町村職員等の支援員向けに研修を実施。
- ・講師や視察先は、独自の取組により孤独・孤立対策を進めるNPO・団体や、行政職員等に依頼。
- ・参加者同士の情報交換・意見交換等の場も設定。



「世代間を越えた地域づくりを考える」

特定非営利活動法人ソンリッサ代表理事 萩原 涼平 氏

(令和7年10月28日)



「垣根を越える協働が団地（まち）の未来を切り拓く」

神奈川県住宅供給公社 高齢者事業部 部長 一ツ谷 正範 氏

(令和7年11月28日)



4 協議・報告事項

- ・連携事業マッチングの仕組みについて
- ・構成員の活動報告について
- ・安心・つながりプロジェクトチームの検討結果について
- ・本ネットワークの今後の取組について

4-1 連携事業マッチングの仕組みについて

構成員同士の連携事業を創出しやすくするため、次のことを検討しています。

- 1 構成員の活動内容・課題・提供可能資源等の見える化
- 2 構成員×構成員、構成員×県内団体との連携事業エントリーの仕組み化

1 構成員の活動内容・課題・提供可能資源等の見える化

- ・県HPに各構成員の活動内容・課題・提供可能な資源を公開
- ・県HPに構成員のHPへのリンク掲載

構成員から寄せられた意見等とりまとめ

No.	構成員団体名	意見交換・情報共有事例		連携事業を実施した組織	連携内容	組織が抱える課題・課題にあたり提供可能な資源
		項目	概要			
1	社会福祉法人大井町社会福祉協議会	県内の各団体・組織の取組	県内の各団体・組織で取組られている「協力・協力対策」の具体的な取組内容や出来事などの情報			
2	防災・防立計画等	社団法人ほひの地域福祉・共生社会等の連携団体	■防災協議会、フィールドワーク等を通じて地域の様々な取り組みを把握	■個人活動を支援する、あるいは公的的な活動に取り組むための資金の調達（人材、情報クリーナー、教育、支援など）		
3	ミニ／＼やまやま支援事業所					・「防護所」を持っていないこと。 ・事業の実施が十分に行えないこと。 ・就労のための支援ができないこと。 ・個人の施設5ヶ所を利用できること。
4	株式会社iWely	支援対象外のグレーブーン	弊社ではまだ困っていることはないくらい段階から、最も上級までして自分の気持ちには向ける「越ぐ」を提供しています。30才50才の働く世代の利用が多く、一貫性はもちろのが利用しているのが特徴だとされてる。会社はある程度のところまでやっているが、自分ではいられない声などはない声が少しある。アドバイスがあるから、今はよくそれをさせてもらっている。新しい商品が早く打っていったら自分で利用されている。その後、各支援サービスと連携できること、ゲーブルの人は高齢者に対して提供できるのには思っているので、HPはリンクで紹介するなど、相談のひととの連携強化として連携させてもらることを願っています。	神奈川県内の地域福祉支援センター ・民間支援団体	HPはリンクで紹介するなど、相談のひとの課題として活用させてもらることを願っています。	・まだ認知が十分でない ・最も支援の強度が行政支援の文脈で評価されにくく、連携先が認知されがちであること ・オンライン実施による地理的制限がない対応力
5	神奈川県老人クラブ連合会	友愛チーム活動	毎年の活動報告（芦川訪問やラヨンの活動など）	主に高齢者の孤独・孤立防止のためにはつながりある活動（主に高齢化・活動を知らせてもらひための活動不足（HPOMS等、インターネットを使った様子での対応不足））	多くの高齢者や障がい者等が活動する場所があり、それだけの人がいるため、その活動に付いても理解している。友愛チームの活動には地域によって高齢者があるが、それだけで友愛チーム活動をしている。	
6	生活協同組合 パルシステム神奈川	パルシステム神奈川の紹介	県が運営する「地域共生社会」実現のため、当組合で実行している絆維持の取組みについて紹介する機会があればと思います。まずは、当組合センターを中心として地域の方々の医療連携づくりです。		配達センターの会員登録およびそこで開催している「みんなでゆっくりCAFE」の連携	
7	インクルージョンネット かながわ				個人はありません	運営している事業（生活困窮者自立支援事業、学習・生活支援事業、かながわ女性扶助）における対応のケースやそこを学ぶための対応。

活動内容・課題・提供可能な資源のとりまとめを公開

参考資料4



神奈川県
Kanagawa Prefectural Government

防災・緊急情報

選んで探す

分類から探す

ホーム > 県子窓口・県政運営・県勢 > 県政委員会 > 認定計画 > 人生100歳時代の計画図 > かながわ人生100歳時代ネットワーク リンク集
印刷

かながわ人生100歳時代ネットワーク リンク集

「かながわ人生100歳時代ネットワーク」に参加している企業、大学、NPO等の団体が運営しているホームページへのリンク集です。参加したいイベントや活動を探す際に役立てください。

かながわ人生100歳時代ネットワークに加入している団体のホームページ等へのリンクをまとめたページです。



東海大学
生涯学習講座
オンライン講座!



パルシステム神奈川
pal-system



昭和大学
リカレントカレッジ
2021年春新開講



横浜駒澤大学
平成公開講座



良縁会開拓本部
SUCCESS
1. 個
2. 家
3. 事業
4. 指導
5. 運営
6. ポート
7. 活
8. 大手
9. 加盟

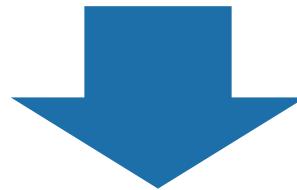


グロースサポート社労士事務所/株式会社グロースサポート

リンク掲載のイメージ

2 構成員×構成員、構成員×県内団体との連携事業エントリーの仕組み化

現在、連携事業を創出するためのマッチングの仕組みがなく、各個別の事案を隨時事務局が受け止め、適切であろう連携先に打診し、調整を行っている。



①連携事業を希望する団体がエントリーシートを提出

②事務局が別途作成する要領（ルール）に基づき、要件に合致しているか確認するとともに、事業実施にあたっての諸条件を確認

※要件のイメージ 孤独・孤立対策に資する取組か、県民を対象としているか、特定の政治・宗教等を支持するものではないか、営利を主たる目的としている又はその旨県民に疑念を抱かせる内容になっていないか 等

※諸条件のイメージ 自前で用意できるもの・連携相手に求めるものは何か、いつ・どこで・どのような方を対象とし・何名程度に行うのか、費用負担は必要か、希望する連携相手は誰か 等

③確認の結果、適当と認められる場合は、希望する連携相手に情報提供する（県がつながりがある相手のみ）とともに、一覧化し、県HPに公開

2 構成員×構成員、構成員×県内団体との連携事業エントリーの仕組み化

福岡市NPO出前講座一覧

講座名	講座概要	対象	人数	時間	準備が必要なもの	費用	実施団体
こども							
8 子育て家庭への地域サポートを考える講座	私たちは、各方面から寄贈いただいた大切なランドセルを磨き上げて、それを必要としてくださるご家庭にお渡しする「ランドセルバンク」というリユースの取組みを進めています。これまでに200個ほどのランドセルを様々なご家庭にお渡してきました。(R5.4月現在)受取ってくれたお子さんの中には、ワクチンから緊急避難してきたご家庭の女の子もいました。本事業の紹介と併せて、「今、なぜこの取組みが必要なのか」を視点・切り口に、現在の子どもたちや子育て家庭を取り巻く環境について考える講座です。	子どもから大人まで	何名でも可能	1時間程度	プロジェクター、スクリーン、会場によってはマイク等	無料	NPO法人 次世代のチカラ FUKUOKA
9 公民館を活用した不登校のお子さんへの居場所づくり	不登校児童生徒の急増という大きな社会課題局面に対して、地域主体で取り組める子ども支援を考える講座です。公民館を活用して地域の大人が協力し合いながら、学校に通えていないお子さんの居場所づくり・学習スペースの支援に取り組んでいる実例を題材に、地域の受け皿としての可能性を探ります。	地域の大人	何名でも可能	1時間～2時間	プロジェクター、スクリーン、会場によってはマイク等	無料	NPO法人 次世代のチカラ FUKUOKA
10 PATORUN One-Day(パトランワンデイ)～パトラン体験～	パトランは、パトロールランニングの略で、ランニングを活用した新しい形の防犯活動です。街を走ってパトロールする取り組みです。パトラン体験プログラム「PATORUN One-Day」は生きづらさや離がいなどを抱える子どもたちに向けて、パトランを体験していただく取り組みです。	小学生から高校生の子どもたち	5～20名	90分程度	要相談	1回 18,000円	認定NPO法人 改革プロジェクト
11 こどもアドボカシー講座～こどもの声を聴くために～	こどもの声を社会全体で聴く取り組み「こどもアドボカシー」の基本を学びます。学校や家庭、地域でこどもの声を大切にしながら活動するヒントと一緒に考えることもできます。	大人	何名でも可能	1時間～2時間	プロジェクタ、スクリーン、マイク	講師料15,000円/h	NPO法人子どもアドボカシーセンター 福岡
12 キッズ体幹☆体育教室	小学生を対象に、発育発達の考え方を重視した体幹トレーニングを習得します。またとロッドといったオリジナルのツールを使った下肢の巧緻運動とリズム感を養うトレーニングで子供たちが楽しみながらトレーニングできます。	小学生	10～30名	90分	なし	1回10,450円～(要相談) (人数・回数によって異なる場合あり)	NPO法人 cocofull

一覧のイメージ（福岡市の取組を参考）

福岡市ホームページより引用

賛同いただけましたら、後日別途調査票やエントリーシート等をお送りし、皆様のご意向を照会いたします。

4-2 構成員の活動報告について

- 1 友愛活動について 神奈川県老人クラブ連合会
- 2 パルシステム神奈川の総合福祉について 生活協同組合パルシステム神奈川
- 3 地域のつながり実態把握調査について 大井町社会福祉協議会
- 4 その他

4-3 安心・つながりプロジェクトチームの検討結果について

安心・つながりプロジェクトチーム

有識者や関係者からの意見を聴取し、現役世代も含めた単身高齢者等の安心・つながりづくりを始めとする孤独・孤立対策の推進に向けた検討に資することを目的に、孤独・孤立対策を担当する内閣府特命担当大臣の下、設置されたプロジェクトチーム。



安心・つながりプロジェクトチーム取りまとめ

～お互い様のつながりづくり～

令和7年7月31日

ボイント

- ① 居場所づくりは、日常生活活動線上で、「楽しいこと」「やりたいこと」が重要。「役割」や「出番」をつくり「頼る」。
- ② 民間企業は、事業活動を通じたつながりづくり、社員間・社員と地域とのつながりづくりの重要な担い手。
- ③ 退職後の孤独・孤立は皆が直面し得る課題。社会や地域とのつながりづくりなど、現役世代からの「備え」が重要。

- 今後、単身世帯が増加し、孤独・孤立のリスクを抱える単身の方が増加する懸念（2050年に全世帯の44.3%と推計）。
- 年齢を重ねて身体機能や認知機能の衰えなど高齢期の課題を抱えつつも、社会や人々と適切につながりながら、**単身の方が安心して生き生きと暮らしていく社会づくり**が必要。
⇒ ①身寄りがない状況にある高齢者等への支援に係る施策
②**孤独・孤立の予防のための中長期的視点に立った対策**

単身で身寄りがなくても、日常生活から死後の手続まで困ることなく、適切な支援を受けられるような仕組みを社会の基盤として実装。

【PTの重点】

- ✓ 現在、単身で身寄りのない高齢者の孤独・孤立の予防と、将来を見据え、現役世代を含め、今後増加していく単身者が高齢期に至っても社会とのつながりを持ち、孤独・孤立状態に至らず、安心して高齢期を過ごすことができるよう、中長期視点に立った対策を併せて重点的に議論。

- 関係省庁や地方自治体において、意思決定支援・身元保証や死後事務等についての様々な施策が講じられ、有識者による議論も深められている。
⇒ 本PTにおいては、関係省庁の取組との役割分担の観点も踏まえ、議論等の状況を把握。

①居場所・つながりづくりの在り方

多様な居場所づくりの促進

- 「SNS以上しがらみ未満」の緩やかなつながりが求められる。
- 居場所の特性（交流型・支援型）を意識し、多様（どこも）・多様（どこか）な居場所が必要。
- 「課題」を入口にするのではなく、好きなこと、やりたいことを「タグ付け」。
- 担い手自身が「楽しい」と思える居場所づくり。
- 日常活動線上で自然に集える工夫。

- モデル事業、交付金の重点的な活用。
- 地方における官民連携基盤（プラットフォーム）の設置加速化。

担い手の確保に向けた取組の在り方

- 地域活動の担い手の高齢化やシニア層の担い手不足に直面。
- コーディネーター／リーダーの養成と、現場の活動の担い手を両立する必要。
- できる範囲で、無理なく地域活動に参加する潜在的な担い手の掘り起こし。
- 居場所で役割を果たし、支え合う。

- つながりサポーターの普及促進。
- 地域の活動と人材とのマッチング支援。
- リーダー養成研修、民間企業の取組促進。

②支援につなげる際の課題

受援力を高めるための個々人の意識醸成の在り方 声を上げづらい方等に支援を届けるための取組の在り方

- 「助けを求めるに恥ずかしいことではなく良いこと」という理解の浸透。
- 働く女性が増え、退職を契機に社会とのつながりを失いかねないという課題に皆が直面し得る。
- 特に若者・現役世代へのアプローチが重要。
- 「支援の対象」と扱わず、「役割」や「出番」をつくり「頼る」こと。自己肯定感・有用感。

- 広報・啓発の強化によるステigma解消。
- 民間企業への働きかけによる現役世代への啓発。
- 「役割」の共通認識の形成。

③行政が果たすべき役割及びNPO等や民間企業に期待される役割について

● 国・地方自治体

- ✓ 官・民・NPO等の水平的な連携基盤づくり
- ✓ 後方支援、広報・啓発

● 市民社会組織やNPOなど

- ✓ 多様な居場所・つながりづくりの中心的な担い手
- ✓ 顔の見える関係の構築

● 民間企業

- ✓ 社員間・社員と地域とのつながりづくり
- ✓ 退職後に備えたつながりづくり
- ✓ 事業活動を通じたつながりづくり

4-3 安心・つながりプロジェクトチームの検討結果について 意見交換

ポイント

- ①居場所づくりは、**日常生活動線上**で、「楽しいこと」「やりたいこと」が重要。「役割」や「出番」をつくり「頼る」。
- ②**民間企業**は、事業活動を通じたつながりづくり、社員間・社員と地域とのつながりづくりの重要な担い手。
- ③退職後の孤独・孤立は皆が直面し得る課題。社会や地域とのつながりづくりなど、**現役世代からの「備え」**が重要。



これらを踏まえ、NPO・企業・行政等、それぞれの立場において果たすべき・期待される役割について、構成員の皆様からご意見を伺いたい。

4-4 本ネットワークの今後の取組について

[協議事項]

各構成員が抱える課題や、提供できる資源を持ち寄って、連携事業を実施できないか、ご意見を伺いたい。

(課題例：活動を行う施設がない、活動を担う人員が足りない、活動を広める手段がない、（子供・高齢者・生活困窮者等）の○○体験・○○活動が不足している、孤独・孤立状態の方が活動する場がない、孤独・孤立状態の方を把握するのが難しい、孤独・孤立を抱える方をつながりの場と引き合わせることができない)

(資源例：提供可能な遊休物資・遊休施設がある、○○体験、○○活動のノウハウがある、○○地域に対する周知の方法を有する、○○とのつながりがある 等))

事務連絡

次回について
(令和8年5月頃を予定 別途日程調整)

つながろう かながわ

